

増減なしとなっているが、私立は昭和46年度に1校設置され、昭和51年度に廃止されている(図2-4-9)。

次に、地域別学校配置状況を昭和41年度から昭和51年度までの地域別学校数推移からみると、全日制においては、会津、いわき地域を除く各地域において学校数が増加し、昭和51年度に県北20校、県中

22校、県南8校、会津19校、南会津4校、相双15校、いわき16校となっている(図2-4-10)。

また、定時制においては、昭和41年度から昭和51年度までに、いずれの地域にあっても学校数が減少し、昭和51年度において、県北7校、県中4校、県南1校、会津5校、いわき3校となっている(図2-4-11)。

以上のことから、全日制及び通信制高等学校については、学校数の推移がほぼ一定の状況にあり、定時制高等学校については、学校数の推移状況が減少傾向を示しているといえる。

従って、今後は、志望志向の動態予測等に基づき、高等学校の地域配置を検討し、その配置の適正化を更に推進する必要があるだろう。

(7) 学科別学校構成

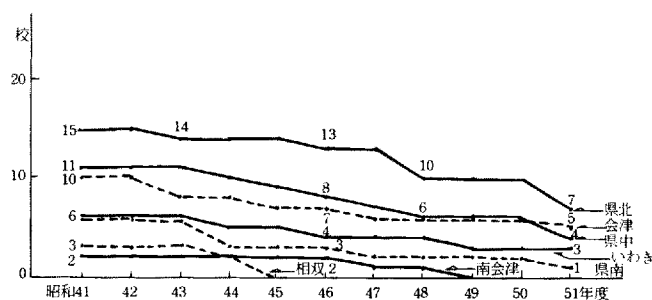
学科別学校構成の状況を昭和41年度から昭和51年度までの学科別学校構成比の推移からみると、全日制においては、単独校の構成比が昭和41年度 55.21%、昭和46年度 56.87%、昭和51年度 59.22%と緩やかな上昇傾向を示している。

従って、2学科以上の併置校(以下「併置」という。)の構成比は、当然下降傾向を示している。

単独校における学科別学校構成比は、普通科が昭和49年度、昭和50年度において急速な上昇を示しているが、昭和51年度にやや低下の状況を示している。

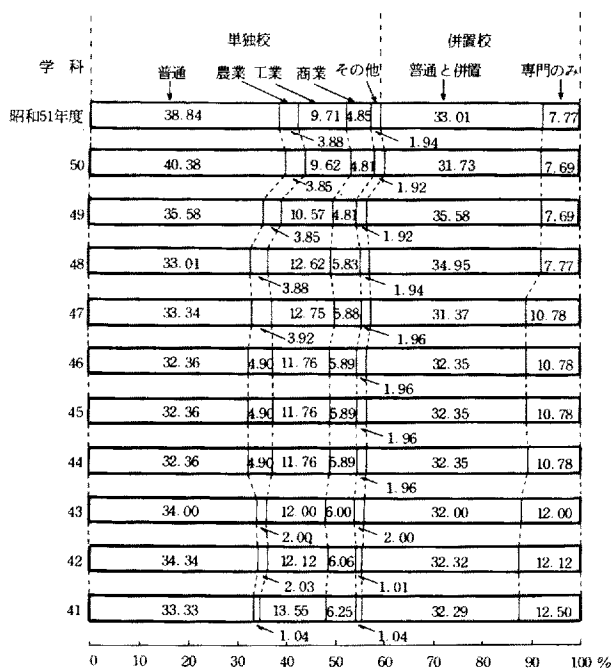
普通科以外の学科にあつては、その学校構成比が、昭和46年度ないし昭和47年

図2-4-11 地域別定時制高等学校数推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。
2. 学校数は、公立、私立の合計である。
3. 分校は、1校として取り扱う。

図2-4-12 学科別全日制高等学校構成比の推移



注：1. 「学校統計要覧」(昭41～昭51)による。
2. 学校構成比=(当該学科学校数)÷(全日制高等学校数)×100
3. 学校数は、公立、私立の合計である。